

統合システム運用管理

クライアント業務自動化

JP1/Client Process Automation のご紹介

～RPAの利用も含めた一連の業務プロセスの自動化を実現～

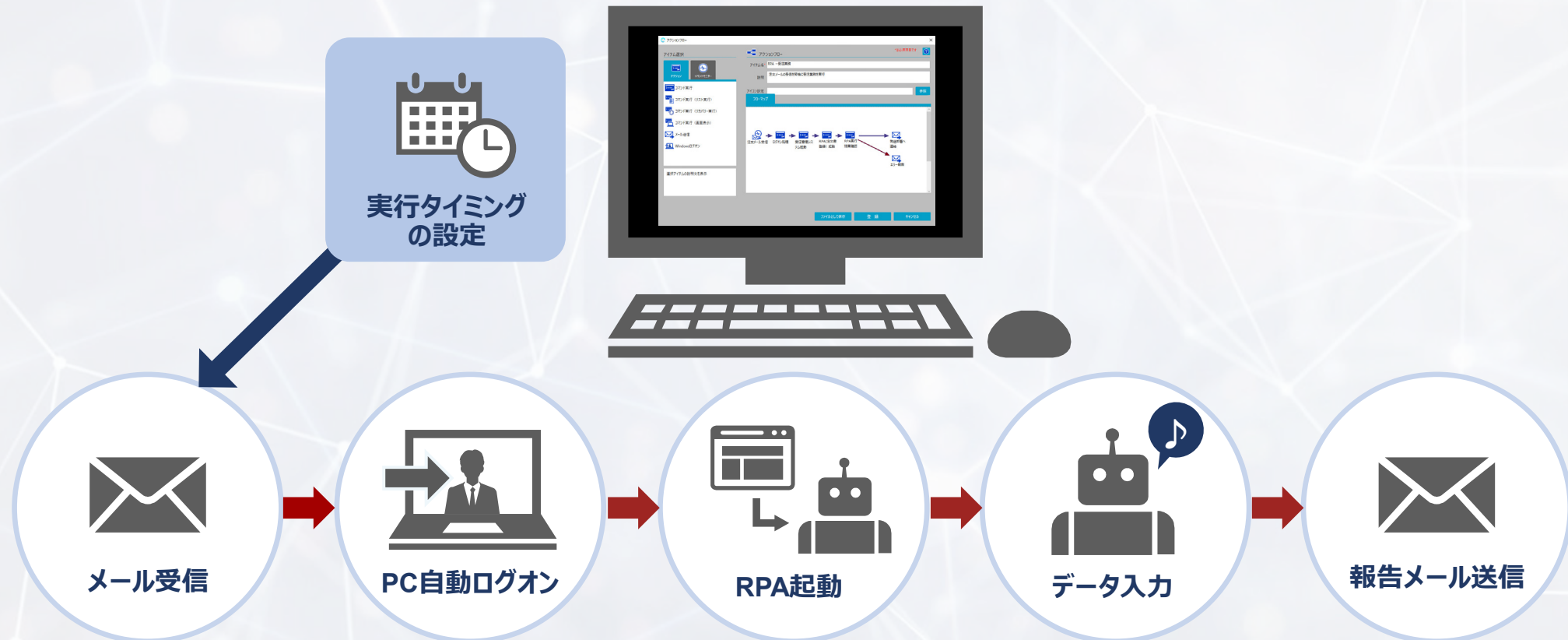


株式会社 日立製作所

Contents

- JP1/Client Process Automation の概要
- できること
- システム構成例
- 安心してお使いいただくためのサポート

RPA製品が実行する業務を含め、 PCで行う定型業務の実行スケジュールや実行順序を制御



できること

- JP1/Client Process Automation できること
- PCで行う複数の処理を、一連の業務プロセスとして自動化できる
- 日時や特定の事象をきっかけに業務を自動実行できる
- RPAで自動化した業務の確実な実行と結果の確認ができる
- 業務システム全体の統合と自動化ができる

■ PCで行う複数の処理を、一連の業務プロセスとして自動化できる

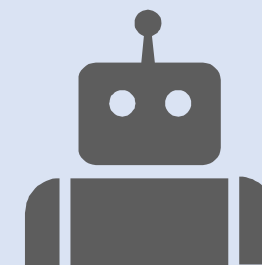
日時や特定の事象をきっかけに業務を自動実行できる

- 業務スケジュールに合わせた自動実行
- 決められた順序で確実に実行
- 事象の発生を契機とした自動実行
- 実行結果によって次の処理を自動選択



RPAで自動化した業務の確実な実行と結果の確認ができる

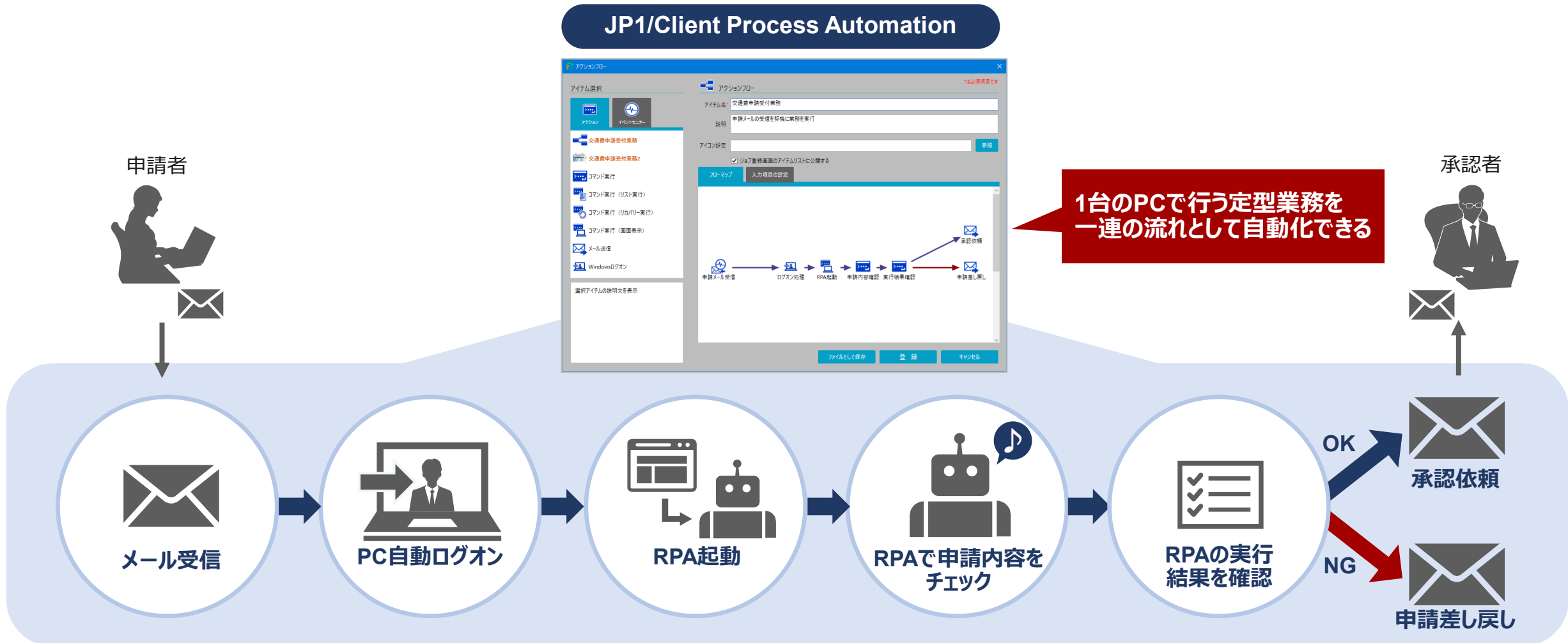
- Windowsへの自動ログオン
- 複数処理の同時実行による失敗を抑止
- 実行結果を容易に確認



PCで行う業務と基幹業務を連携して、業務システム全体の統合と自動化ができる

PCで行う複数の処理を、一連の業務プロセスとして自動化できる

「メールを受信して、RPA製品で業務を実行し、業務完了後にメールを送付する」など、1台のPCで行う定型業務を、準備作業や後処理とあわせて一連の業務として自動化できます。



「営業日だけ実行」「休業日だけ実行」「月末最終営業日の9時に実行」「祝日は自動で振り替え」など、実際の業務スケジュールに合わせて、自動実行する日時や実行間隔をきめ細かく指定できます。

実行日のスケジューリング例

営業日だけ

	○	○	○	○	○	
	○	○	○	○	○	
		○	○	○	○	
	○	○		○	○	
	○	○	○			

休業日だけ

						○
○						○
○	○					○
○			○			○
○						

毎月最終営業日の9時

実行時刻
9:00

毎週月曜（休日振り替え）

	○					
	○					
	○					
	○					
	○					

祝日は自動で
振り替え

(□: 営業日 □: 休業日 ○: 実行日)

「ファイル作成時に実行」「メール受信時に実行」「Windowsログオン時に実行」「コマンド実行が成功したら実行」など、業務開始の契機となる事象の発生を検知して業務を実行できます。日時や実行間隔だけではなく、特定の事象の発生と連動した業務の自動実行が可能です。

自動実行の契機の例

ファイルが作成されたら

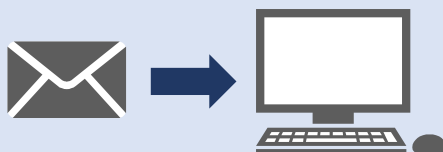


〇〇という
ファイルが
作成された

ファイルの作成・削除、
サイズ変更など

メールを受信したら

件名:「交通費申請」



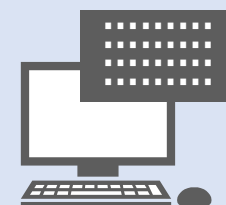
特定の件名や宛先の
メールの受信

PCがログオンされたら



ログオン/ログオフ、
画面ロック/画面ロック解除

コマンド実行が成功したら

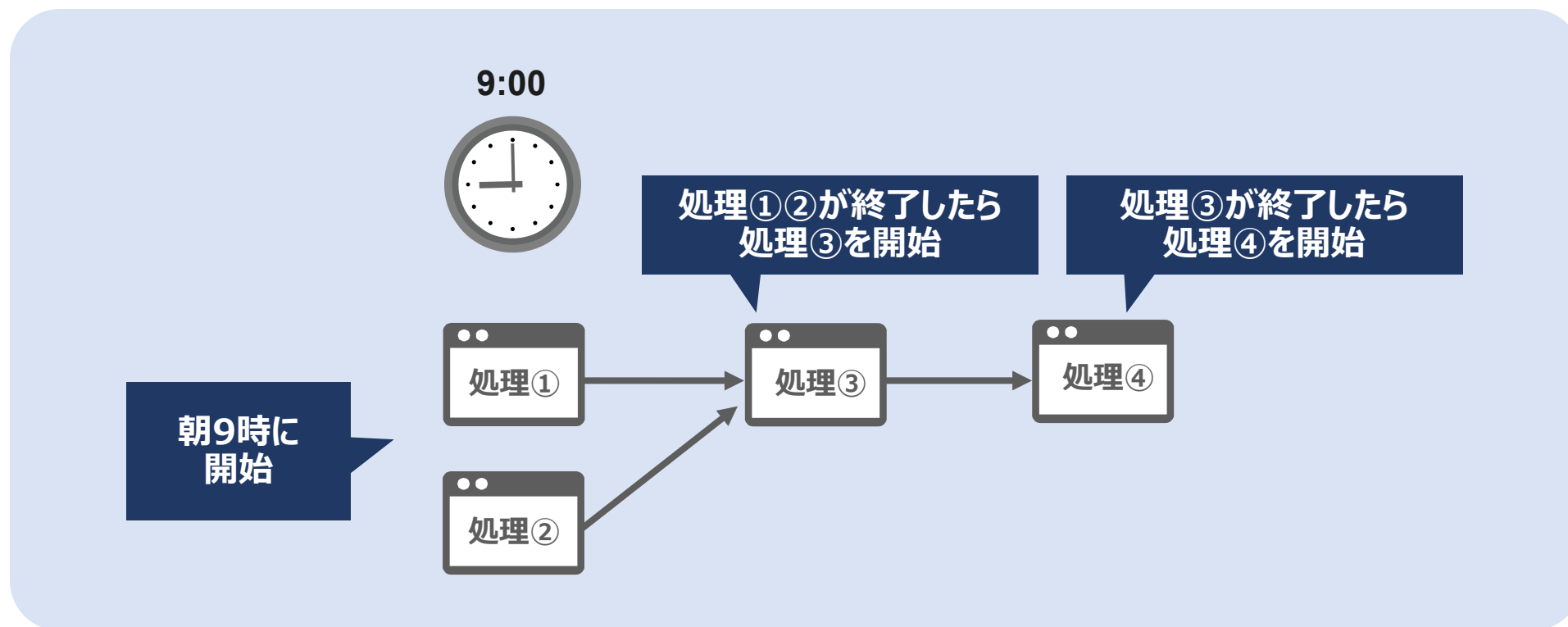


実行成功

コマンド実行結果の
成功/失敗など

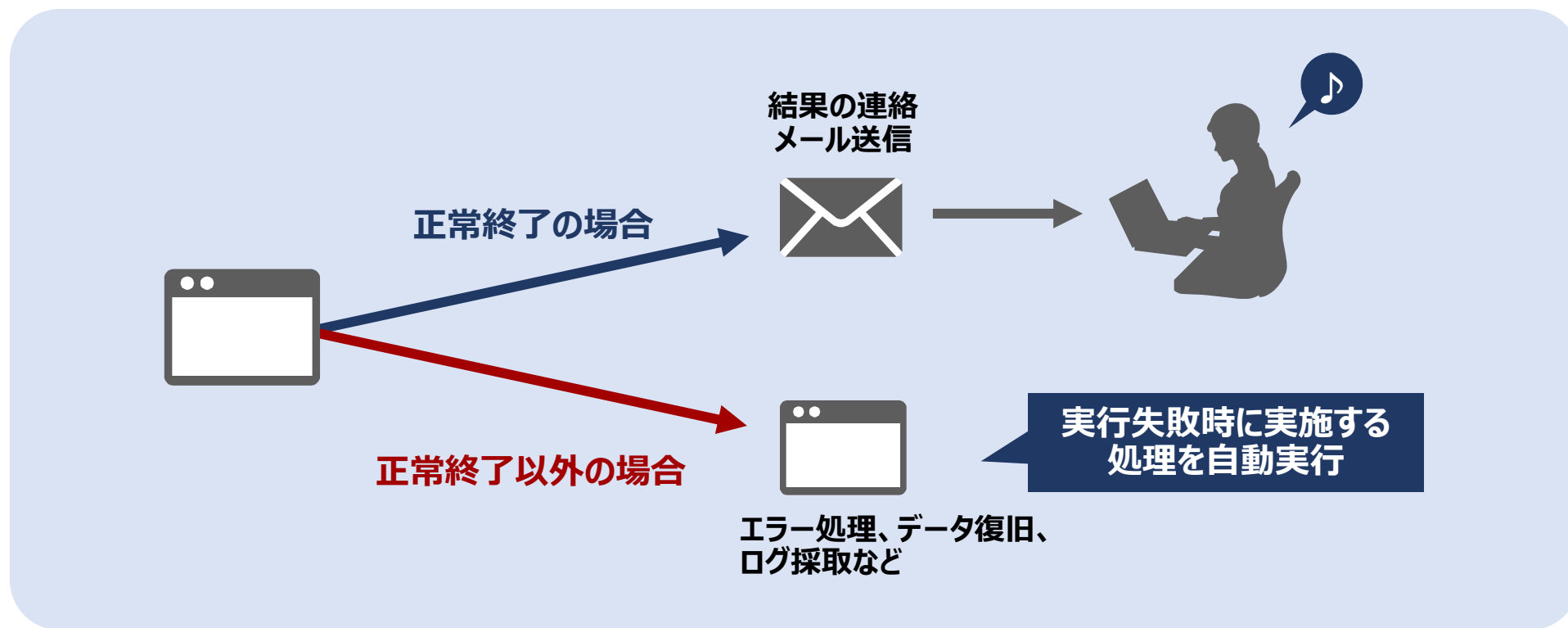
日時や特定の事象をきっかけに業務を自動実行できる 決められた順序で確実に実行

実行する順序が決まっている複数の処理について、定義した順序どおりに実行できます。先に実行する処理の処理時間にかかわらず、先の処理が終了するのを待って次の処理を開始できます。また、複数の処理が終了するのを待ち合わせて、次の処理を開始するといった運用も可能です。



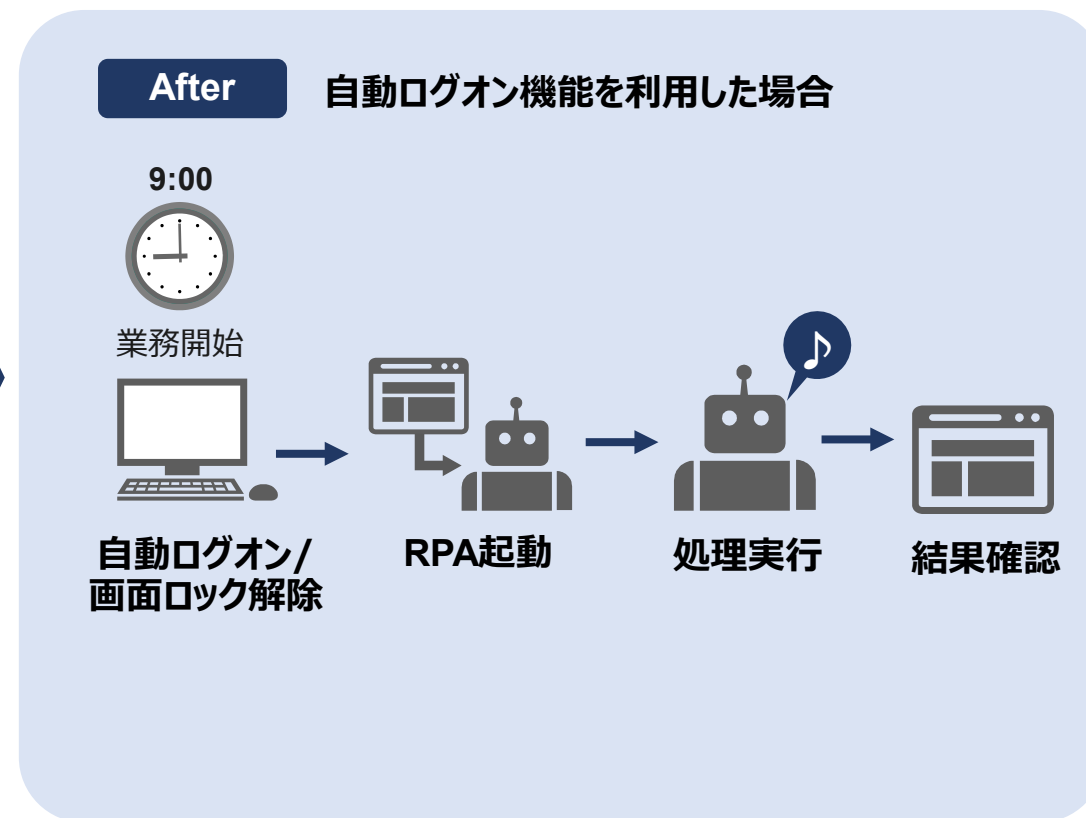
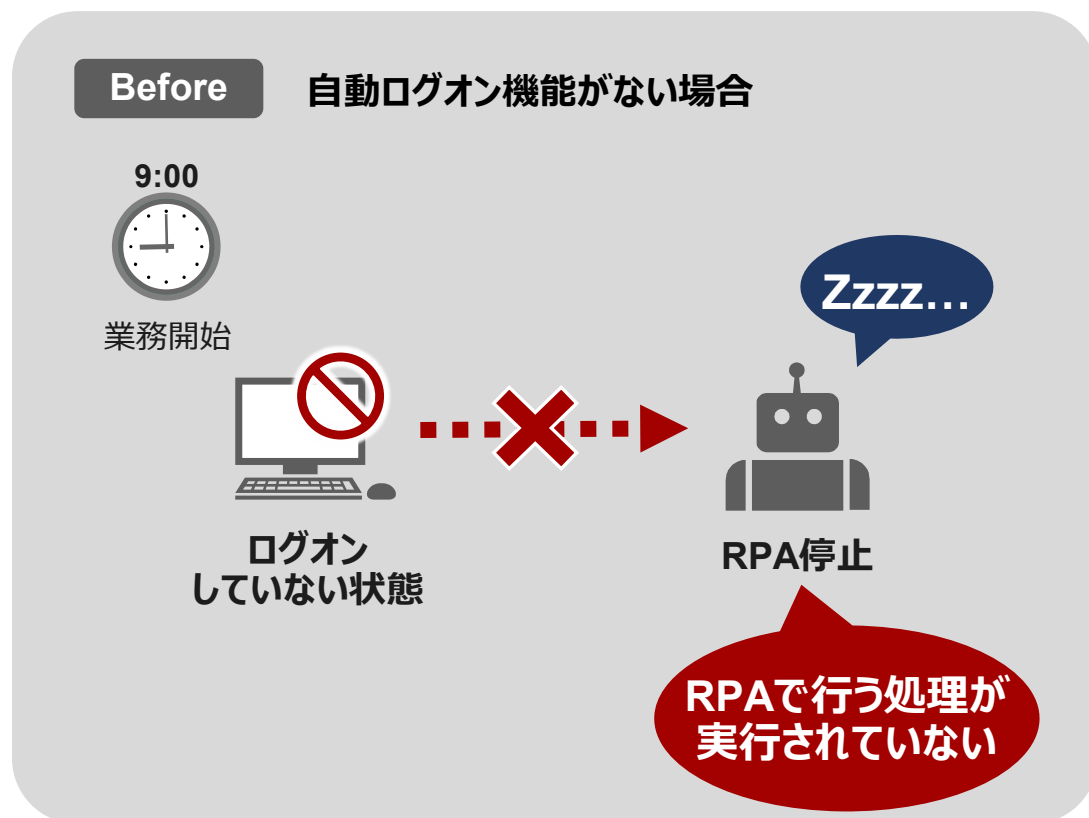
日時や特定の事象をきっかけに業務を自動実行できる 実行結果によって次の処理を自動選択

処理の実行結果によって、その後に行う処理を自動的に変更できます。例えば、先に実行する処理の実行結果が正常終了の場合は次の処理を実行し、正常終了せずにエラーが発生した場合はリカバリ処理を実行するといった、条件付きの処理も自動化できます。

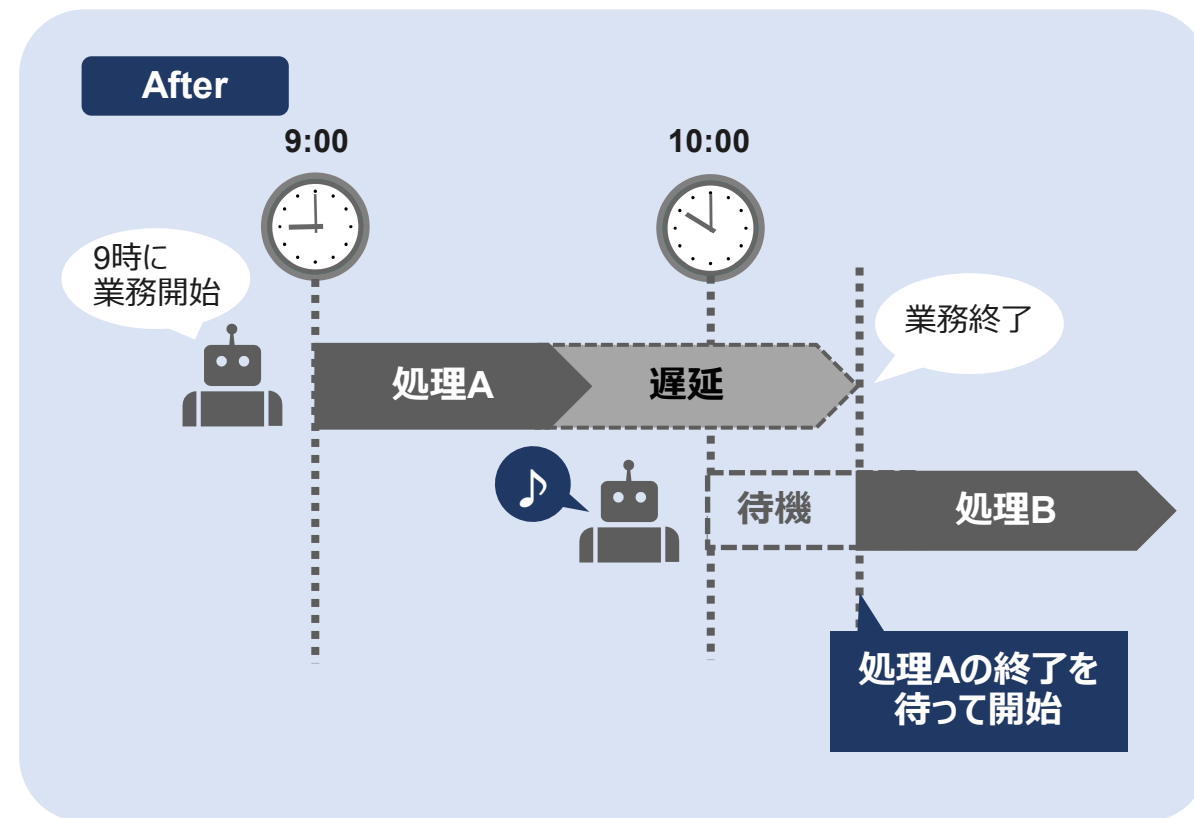
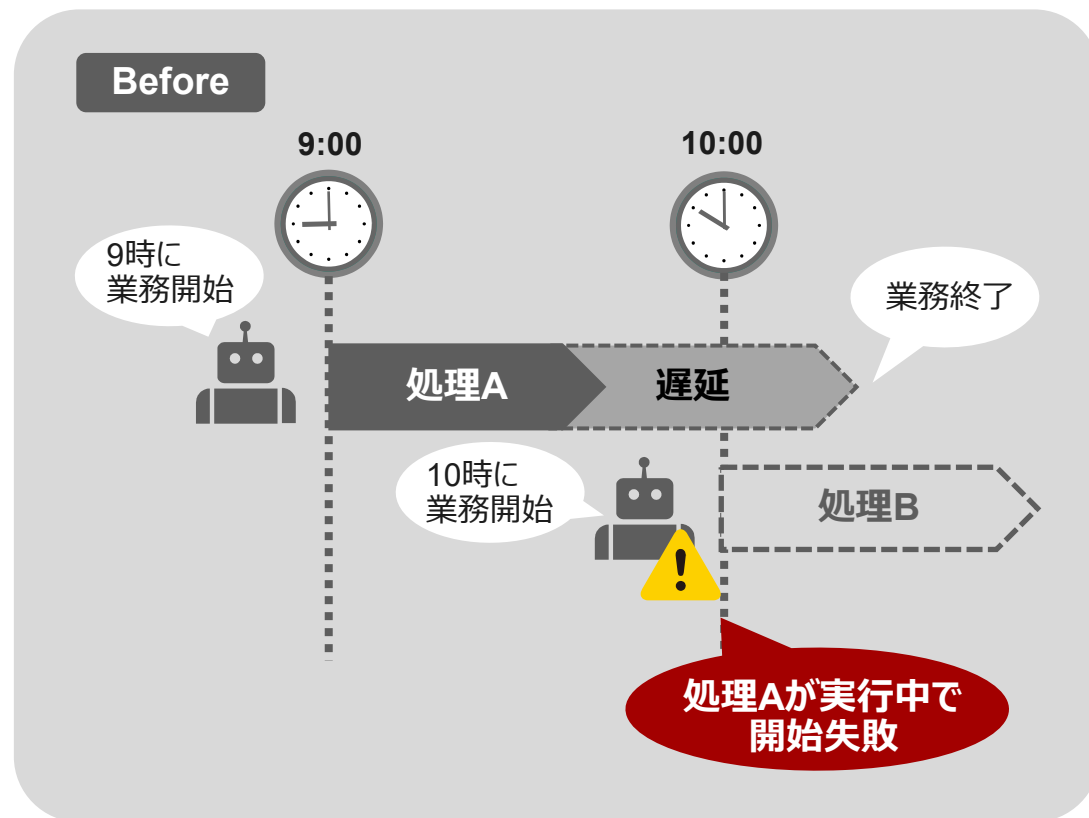


RPAで自動化した業務の確実な実行と結果の確認ができる Windowsへの自動ログオン

「Windowsアップデートで再起動された」「一定時間が経過し画面がロックされた」など、Windowsにログオンしていない状態では、RPAが起動されず予定どおりに処理を実行できない場合があります。Windowsへの自動ログオンとRPA起動を一連の流れで実行することで、わざわざ人がWindowsへログオンしなくても、RPAで行う処理を予定どおりに実行でき、遅延を回避できます。



RPA製品の中には複数の処理を同時に実行できず、ある処理の実行中に別の処理が開始されると失敗してしまうものがあります。このような場合に、排他設定を行うことで複数の処理が同時に実行されないように制御できます。処理の開始時間になっても、先に実行した処理が予定どおりに終わらない場合は、先の処理が終了するのを待って次の処理を実行します。



業務の実行状況をGUIで容易に確認できます。複数の処理を順序どおりに実行する業務の場合、「開始時刻待ち」「正常終了」「異常終了」などの業務の進捗状況を確認できるだけでなく、異常終了の場合には、実行に失敗した処理と失敗要因も確認できます。業務の進捗状況を確認し、失敗している場合は「再実行」を指定することでスムーズに対処できます。

ジョブの状態確認画面

状態確認				
TEST02 2019/06/03 19:43:17 更新				
開始日時	終了日時	状態	再実行	停止
2019/06/03 19:43:00	2019/06/03 19:43:15	異常終了	再実行	停止
2019/06/03 19:42:20	2019/06/03 19:42:28	正常終了	再実行	停止

Hello出力	ユニット名	メッセージ出力
ファイル作成	状態 (戻り値)	異常終了 (1)
メッセージ出力	開始日時	2019/06/03 19:43:01
ファイル出力	終了日時	2019/06/03 19:43:01
ジョブの終了		

どの処理で
失敗しているかを
確認できる

Hello出力

ファイル作成

メッセージ出力

ファイル出力

ジョブの終了

失敗要因を
確認できる

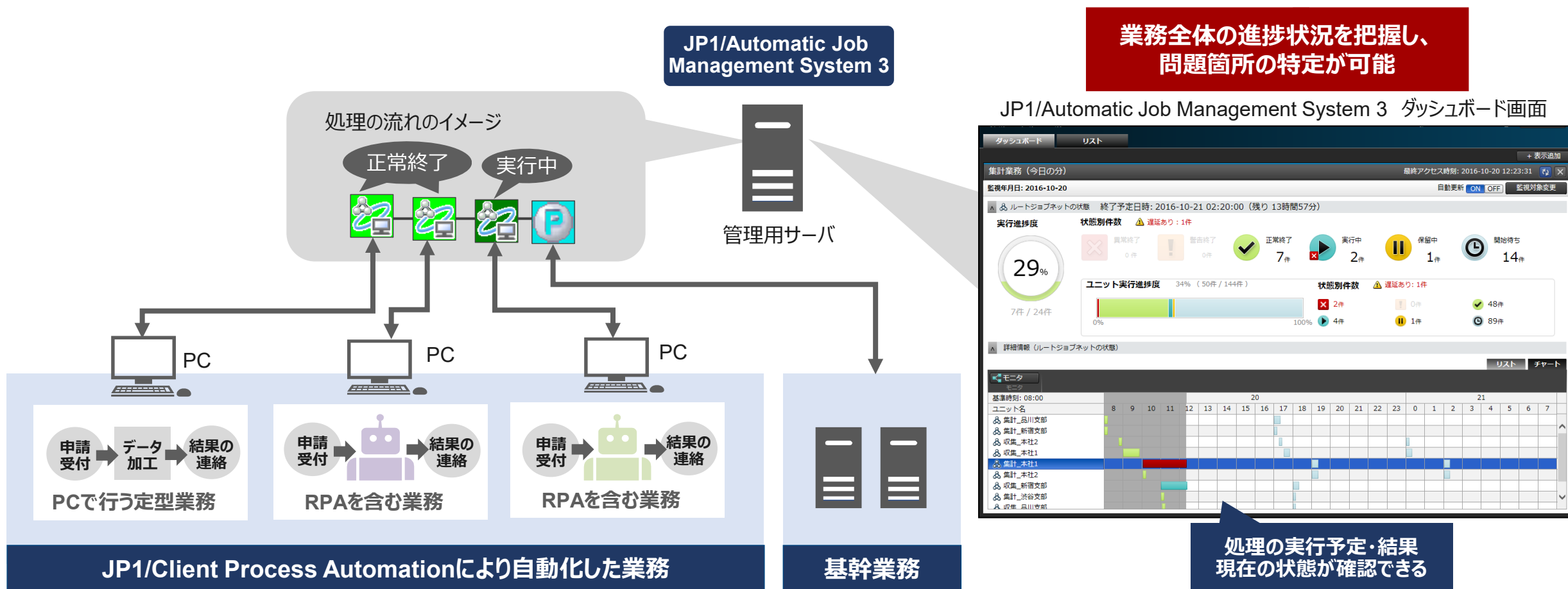
標準エラー出力

xxx は存在しないか、切断されています。

実行結果確認画面

実行結果確認	
メッセージ出力	
実行コマンド	"C:\WINDOWS\system32\cmd.exe" /c C:\windows\system32\msg.exe xxx /w /time:600 <c:\temp\hello.txt
標準出力	
標準エラー出力	xxx は存在しないか、切断されています。

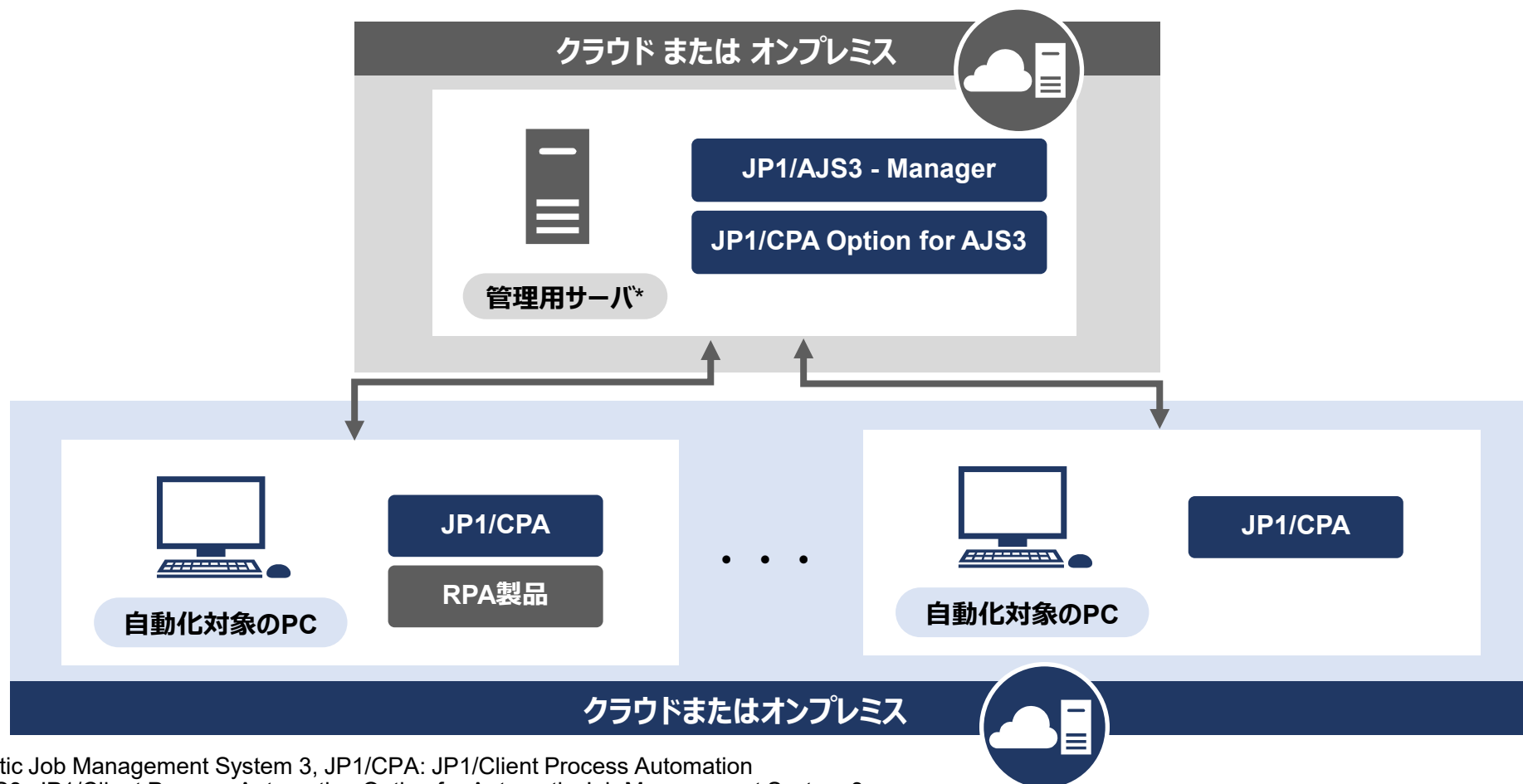
JP1/Automatic Job Management System 3と連携することで、PCで行う定型業務や複数の異なるRPA製品で行う処理と基幹業務をつなぎ、業務システム全体としての自動化と一元管理を実現できます。複数の異なるRPA製品で行う処理の順序性をふまえて、実行順序の制御や自動化ができるので、業務全体としての効率向上が図れます。



システム構成例

■ システム構成例

JP1/Client Process AutomationとJP1/Automatic Job Management System 3を連携し、RPAの利用も含めた一連の業務プロセスの自動化を行う場合のシステム構成は、次のようになります。

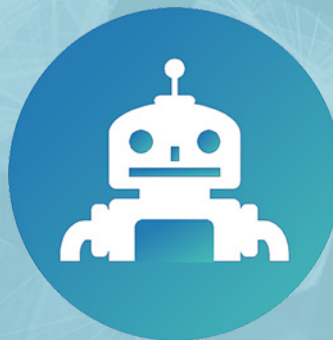


JP1/AJS3: JP1/Automatic Job Management System 3, JP1/CPA: JP1/Client Process Automation
JP1/CPA Option for AJS3: JP1/Client Process Automation Option for Automatic Job Management System 3

* 複数のJP1/Client Process Automationが実行する業務の実行順序や実行状況をJP1/Automatic Job Management System 3 - Managerから一元管理する場合に必要です。

安心してお使いいただくためのサポート

- 多様なRPA製品と連携
- JP1のプロフェッショナルがお客さまを支援
- ワンストップで問題を早期解決
- 長期利用も安心・下位バージョンとの互換性も保証
- グローバルでの利用も安心
- 確かな品質をお客さまへ



ご利用中のRPA製品をJP1と組み合わせることで、運用を効率化できます。

デスクトップ型

- BizRobo! mini
- Power Automate Desktop
- WinActor など

JP1/Client Process Automationで自動化が可能

サーバ型

- Automation Anywhere
- BizRobo! Basic
- Blue Prism
- UiPath Orchestrator
- WinActor+WinDirector など

JP1/Automatic Job Management System 3との連携で自動化が可能

※ご利用中のRPA製品が上記にない場合は、お問い合わせください。

お客さまにとって最適なシステム運用を実現できます。

JP1のプロフェッショナルが、お客さまの要件やシステムの規模・環境に適したシステムの運用方法を導き出し、実現を支援します。

お客さまにとって最適なシステム運用の実現プロセス



* JP1の機能やJP1の運用方法など、技術的なお問い合わせ

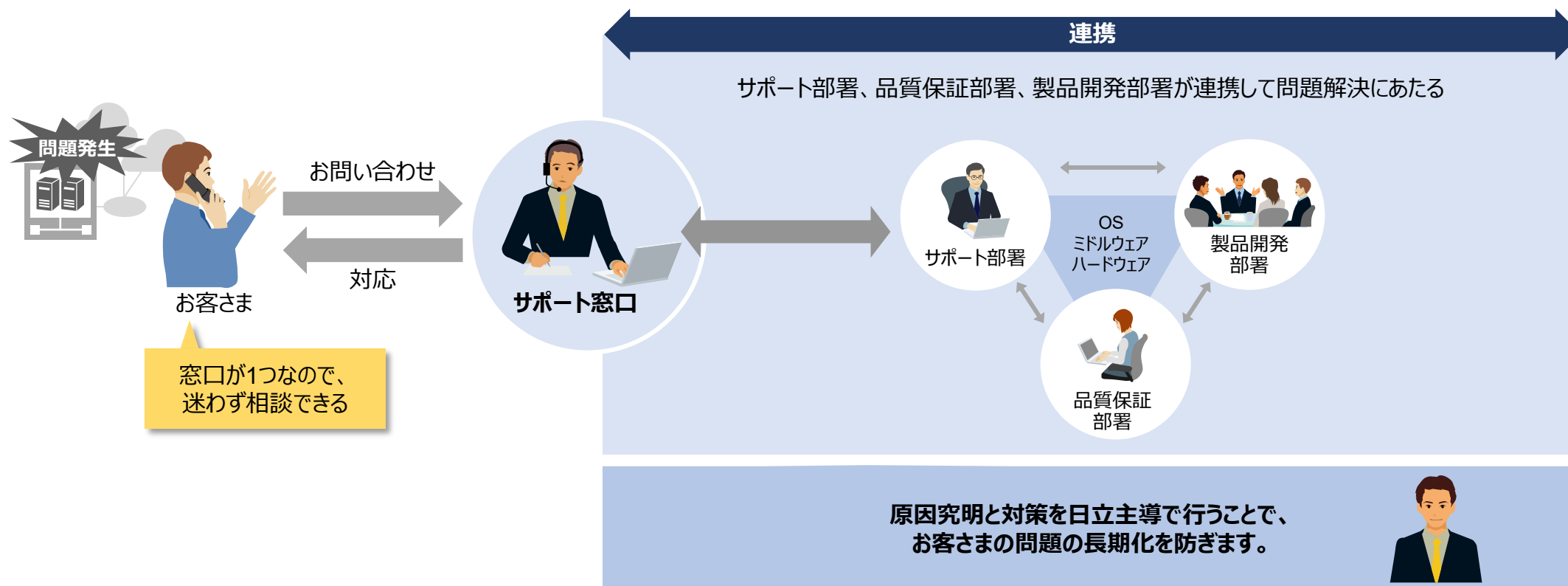
JP1のプロフェッショナルが関わることで、システム運用要件の明確化、検討・実装期間の短縮、運用部署へのスムーズな引き継ぎが可能です。

※ JP1のプロフェッショナルは、JP1技術者資格認定制度に基づいて認定された、JP1の一定以上のスキルを有する技術者です。

ワンストップサポートで問題を早期解決。問題発生時のお客さまの負担を軽減できます。

OSやミドルウェアなど複数の要素が複雑に関連する問題の早期解決を支援します。

ワンストップサポートで問題を早期解決・再発防止、お客さまシステムの安定稼働を支援



長期利用、業務システムの拡張にも安心してご利用いただけます。

お客さまシステムのライフサイクルが長期にわたる場合にも継続してサポート。
JP1はバージョン間の互換性を確保しているため、段階的なシステム拡張が可能です。

お客さまシステムのライフサイクルを見据えた長期サポート



同一バージョンで

最低**10**年間のサポートを保証

業務システムの拡張に柔軟に対応



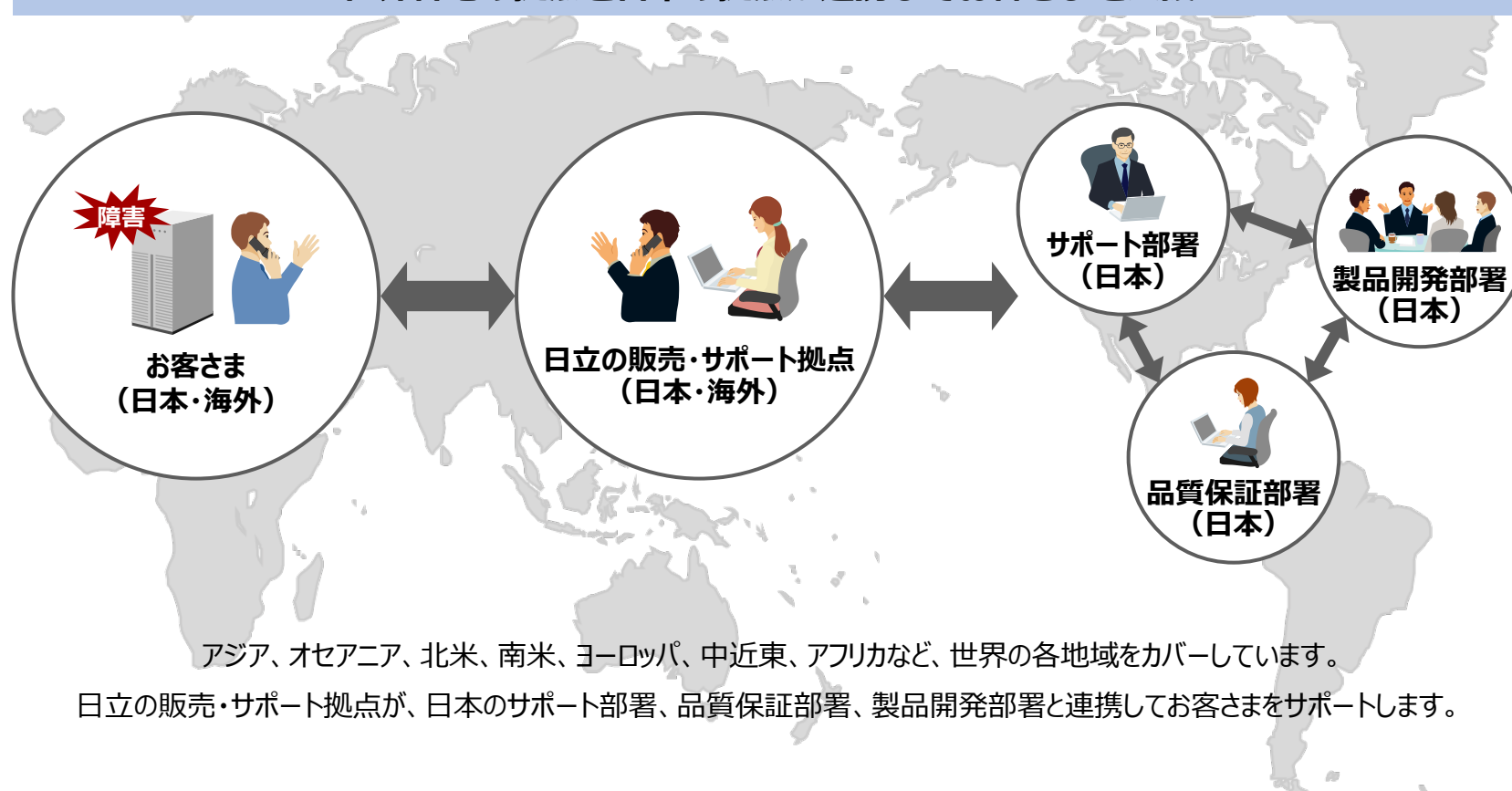
下位バージョンとの互換性を保証。
JP1のバージョンが混在してもシステムを運用できます。

※ JP1をバージョンアップしても、インターフェースの互換性が維持されるため、
連携する製品・サービスやユーザープログラムなどを改修せずに利用できます。

世界各地で安心してJP1をご利用いただけます。

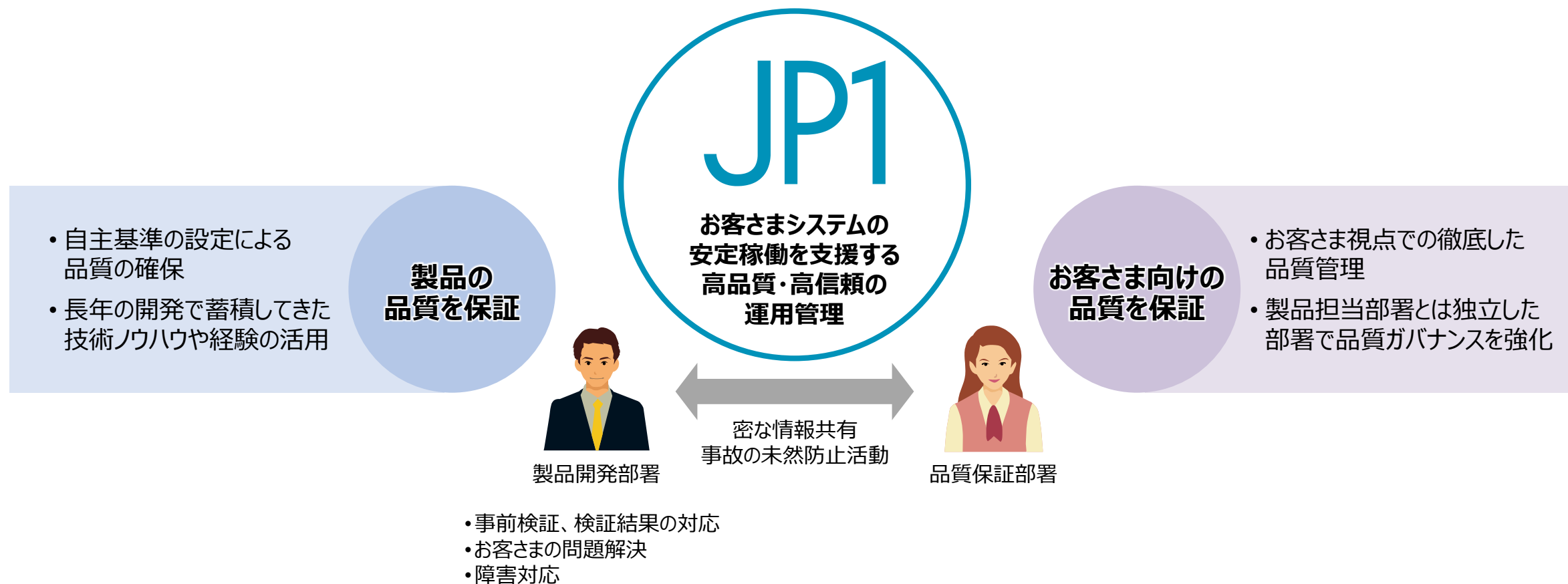
世界各地域をカバーする販売・サポート拠点がお客さまをサポートします。

世界各地の拠点と日本の拠点が連携してお客さまを支援



ミッションクリティカルなシステムの安定稼働を実現できます。

お客さまに安心してご利用いただくために、高品質・高信頼を維持する体制を整えて取り組んでいます。



- Automation Anywhere は、Automation Anywhere, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows、および Power Automate は、マイクロソフト グループの企業の商標です。
- その他記載の会社名、商品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

- 記載の仕様は、改良などのため予告なく変更することがあります。
- 掲載している画面イメージは、実際の画面の色調とは異なる場合があります。
- 輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。
- 動作環境や対応状況については、JP1 Webサイトで最新情報をご確認ください。

END

統合システム運用管理

クライアント業務自動化

JP1/Client Process Automation のご紹介

～RPAの利用も含めた一連の業務プロセスの自動化を実現～

株式会社 日立製作所